

パネル 2013年度せんだいメディアテークでの企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin University 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/362

牡鹿鯨まつり復活祭

パネル作成： 小野紘輝
佐藤麻南
高橋真結子

◎ はじめに

夏の「牡鹿半島の暮らし展 in 鮎川」でお話を伺った鮎川の捕鯨会社の所長さんから「鯨まつりで鯨肉を振る舞うから配布の手伝いをしてほしい」と声を掛けていただきました。そこで10月13日（日）、お祭りのメインイベントとされるツチクジラの炭火焼の無料配布のお手伝いと、夏の鮎川展の補充調査を目的として、牡鹿鯨まつり復活祭に参加してきました。

◎ 鯨まつりの概要

鯨まつりとは鮎川が「捕鯨の町」として栄えてきた頃、その名を全国に広めるために始められたとされます。元々は地元の消防団を主体としておこなわれていましたが、高度経済成長とともにその形を変え、芸能人企画や花火大会、商業捕鯨の実砲実演がおこなわれたりするようになります。



メインステージの様子

本来は毎年8月のお盆前に鮎川港で開催されていたお祭りですが、震災で一時休止されており、この度3年ぶりに復活祭として開催されました。

商工会長さんは「まだまだ震災前と同じようにはいかないが、鮎川港の修復が完了すればまた以前と同じようにお祭りを開催できる」とおっしゃっていました。

◎ 1日の流れ

津波の被災により今回の鯨まつりは牡鹿公民館跡地での開催となりました。まず、近くのお寺で供養祭がおこなわれ、その後会場で10時からオープニングセレモニーが始まり、オープニングセレモニーが終わるとステージでは地元の小中学生によるソーラン節や太鼓の披露、金華山龍踊りや鮎川七福神舞がおこなわれ、たくさんの人で賑わいました。また、11時30分から鯨肉の無料配布が行われ、多くの人が鯨に舌鼓をうちました。

◎ 鯨肉の配布

この日無料配布されたのはツチクジラの肉で、焼きあがった肉は商工会女性部の方たちが1人分ずつに切り分けていました。学生たちはその肉を並んでいるお客さんに配るお手伝いをしました。



鯨肉配布の様子

◎ 鯨・震災犠牲者合同供養祭

鯨まつりの開会前、会場近くの鮎川観音寺にて、鯨と東日本大震災犠牲者の合同供養祭がおこなわれ、鯨、震災犠牲者の順でお経が読まれた後、約20人の参列者が焼香をしました。

住職の方によると鯨まつりの中で供養祭がおこなわれるようになったのはわりと最近だということでした。鮎川観音寺の本堂には鯨の彫刻が奉納物として納められており、外には鯨の慰霊碑もありました。